

幼児の教育 第九十九巻 (平成十二年) 総目録

◇第一号

ある日

私が幼児教育を志した頃(3) 津守 真

南米に保育園を作る―ボリヴィアの

子どもたちとお母さんたちのために―

北浦久美子

実践と理論のあいだに(3)

田中 平八

震災後の子どもたち(24)

季節里親さんと園児 上崎 温子

「児童の世紀」を振り返る―その十七―

本田 和子

子どものいる暮らし

私の父親修行 佐々木 晃

老若男女共同参画社会の子育てを見通す

(2) 公園を出会いの場に

金田 利子・小出 まみ

気持ちを伝えるということ 清宮 聡子

◇第二号

巻頭言 人間関係

子育ての探究 その六 中世末期に

おける母親の苦悩 柴崎 正行

保育現場からの現代幼児論(6)

個人を見つめる 友定 啓子

幼児のコミュニケーション―保育の

現場から考える(1)― 田中三保子

私が幼児教育を志した頃(4) 津守 真

特集(つくる)

楽しく作る 汗して作る 古谷 久美

小児病棟と中学校での『空間』

づくりから 倉田 知子

豊かな自然が私の原点 金井久美子

Kチエアー 北村 俊道

児童館の露天風呂作り 宮里 和則

日常の遊びの中で突然気づいた体験

―U夫がつくったテントから―

清原 規子

◇第三号

ある日

巻頭言 園と家庭との連携をよくする

ために 岡田 正章

遊び中心の保育における記録について

考える―個人記録とボード記録―

近藤千恵子

子ども時代と私(19) 自然と生き物と私

なかむらひよし

「児童の世紀」を振り返る―その十八―

本田 和子

私が幼児教育を志した頃(5) 津守 真

子ども達には美味しいものを食べ

させよう 宮本 和典

子どものいる暮らし 子どものいない

男・夫の子どもの話 神田 伸生

老若男女共同参画社会の子育てを見通す

(3) 共感でつながる街づくり

金田 利子・北山 晃

◇第四号

巻頭言 エネルギーの蓄積と借金の

取り立て 鳴澤 實

私が幼児教育を志した頃(6) 津守 真

いま、子どもたちは

母子のいま(1)母親の状況 山崖 俊子

教育の力と形 田代 和美

耳をすまして目をこらして 宮里 眺美

幼稚園誕生の時代―関信三の葛藤―

(一) ふるさとの関信三 国吉 栄

幼児のコミュニケーション―保育の

現場から考える(2)― 田中三保子

比企の畑から・春 小宮山洋夫

「観察」徒然草 砂上 史子

◇第五号

からだからこころへの発信

―体ほぐしとダンス― 片岡 康子

私が幼児教育を志した頃(7) 津守 真

保育の見直し―その一 加藤いづみ

老若男女共同参画社会の子育てを見通す

(4) 生涯発達の「ふるさと」として

金田 利子

耳をすまして目をこらして(2)宮里 眺美

子ども時代と私(20)

一人ぼっちの僕 三浦 武

保育者を指す学生との関わりから

見えてきたこと 小倉 定枝

子育ての探究 その七 近世における

わが子への関心の高まり 柴崎 正行

三学期、ある日の保育から 上坂元絵里

◇第六号

幼稚園誕生の時代―関信三の葛藤―

(二) 幕末・維新のはざまに生きて

い・ざ・こ・ざ 国吉 栄

赤石 元子

いま、子どもたちは

母子のいま(2)親子の状況 山崖 俊子

私が幼児教育を志した頃(8) 津守 真

耳をすまして目をこらして(3)宮里 眺美

特集へみる

宝捜しのお仕事 山岸 幸子

看る 高橋たか子

「見られる子ども」、「見せる子ども」

みる 井口 眞美

へよかれ〜を見つめ直す手がかりとして

の「物の置き場」の意味 中島ふじ子

佐伯 一弥

◇第七号

ある日

巻頭言 幼児と夏休み 千羽喜代子

子どもの中の暮らし 覚悟を決めて

子どもの中に出てゆくということ

保育の見直し―その二 松浦 浩樹

私が幼児教育を志した頃(9) 田中 朱美

耳をすまして目をこらして(4)宮里 眺美

真

眺美

老若男女共同参画社会の子育てを見通す

(5) 地域の連携における自治体の役割

金田 利子・永田 陽子

子ども時代と私(21)

宇宙を感じる

蕪木 壽江
村井 利行
高橋 陽子

◇第八号

ある日

巻頭言「原体験」をキーワードに

岸井 勇雄

私が幼児教育を志した頃(10)

比企の畑から・夏

小宮山洋夫

(三) 謙著報告書

国吉 栄

耳をすまして目をこらして(5)宮里 暁美

いま、子どもたちは

母子のいま(3)社会性をめぐる子ども

の状況

山崖 俊子

辞書と人間

上野 浩道

忘れられない本

福元 貴子

犬丸りんと香川県健康福祉総務課の

ホームページ

山本 政人

心の中で見る環境問題

吉増 克實

つながりが見えてくる時

永倉みゆき

◇第九号

ある日

老若男女共同参画社会の子育てを見通す

(6) 支援される側からのメッセージ

金田 利子・今泉 依子

私が幼児教育を志した頃(11)

津守 真

保育の見直し―その三 変化する

子どもの成長を支える

市川由利絵

耳をすまして目をこらして(6)宮里 暁美

子どもがいる暮らし

散歩道で教えられたこと

乗原 昭徳

元気が出る、楽しめる文化財保存

―カナダでの体験から―

波多野 純

幼稚園生活の中で自分のもの、

みんなのもの

伊集院理子

子どもの本から

父の記憶を集めた物語

皆川美恵子

◇第十号

ある日

巻頭言 今保育現場に求められる

「真に保育的行為」

関口はつ江

いま、子どもたちは

親と子の情緒体験の共有

青木紀久代

『子ども一〇〇年のエポック』

「児童の世紀」から「子どもの権利

条約」まで」を読んで

津守 真

保育の日常―見えること見えないこと―

矢萩 恭子

幼稚園誕生の時代―関信三の葛藤―

(四) 中村正直との出会い

国吉 栄

比企の畑から・秋

小宮山洋夫

私が幼児教育を志した頃(12)

津守 真

耳をすまして目をこらして(7)宮里 暁美

子育ては米作り「子育てに悩んだら

米作りを考えよう」

森 清光

「ブーブ」に描いたNのこころの世界

吉川はる奈

◇第十一号

巻頭言 味わいのある保育を求めて

高杉 自子

偶然は、必然的にやってくる田代 和美

沖繩の保育問題―五歳児保育を中心に―

神里 博武

老若男女共同参画社会の子育てを見通す

(7) 近代化の行き詰まりを切り開く

金子 利子

子育ての共同

子どもの時代と私(22)

今井 省吾

山の手の原っぱ族

耳をすまして目をこらして(8)宮里 暁美

私が幼児教育を志した頃(13)津守 真

子どものいる暮らし 暮らしの中で

子どもを観る私と私を観る子ども

子どもの本から

愛の祭り イースター 大沢 啓子

◇第十二号

巻頭言 幼児教育について今考えること

小川 博久

いま、子どもたちは 親と子の

情緒体験の共有(2) 青木紀久代

カナダ流バーティの楽しみかた

波多野 純

みんなの中の自分

竹林実紀子

耳をすまして目をこらして(9)宮里 暁美

私が幼児教育を志した頃(14)津守 真

沖繩の五歳児保育問題―その形成過程

と取り組みの経緯― 神里 博武

日常生活における安心感をめぐって

―C・M・シユルツ著『ほっとする

のは指しゃぶりと安心毛布』― 磯部 景子

幼稚園誕生の時代―関信三の葛藤―

(五) 受洗 国吉 栄

幼児の教育第九十九巻総目録

幼児の教育

第九十九巻 第十二号

(二〇〇〇年十二月号)

定価五五〇円(本体五二四円)

発行 平成十二年十二月一日

編集兼発行人 田代 和美

発行所 日本幼稚園協会

〒112-8610東京都文京区大塚二―一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108-8620東京都港区三田五―二―一

発売所 株式会社 フレーベル館

〒113-8611東京都文京区本駒込

六―一四―九

☎〇三―一五三九五一六六一三(営業)

☎〇三―一五三九五―一六六〇四(編集)

振替 〇〇―一九〇―二―一九六四〇

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所フレーベル館にお願いします。